

[第9回日本言語文化学会発表要旨]

終助詞「よ」の音調とその機能 — 音調の型の分類についての聴取調査 —

山崎 真弓

(1994.12.10発表)

1. はじめに

「いいよ」という発話は、「よ」の音調により表現意図が異なる。様々な場面における「いいよ」の発話の録音調査をしたところ、轟木(1993)の分類で、「低くつく平坦な音調」とされる「よ」や、上昇・下降の度合いの少ない「よ」が、異なる表現意図を持つ「承諾」と「断り」の発話に現れた。これらの「よ」を伴う「いいよ」は、「承諾」「断り」のどちらの発話として聞かれるだろうか。また、「低くつく平坦な音調」について見直す必要はないだろうか。

2. 聴取調査 I

調査の目的は、「いいよ」という発話が、低くつく平坦な音調の「よ」、または上昇や下降の度合いの少ない「よ」を伴う場合、「承諾」と「断り」のどちらの意図を表す発話として聞かれるかを調べることである。

被調査者は、東京近郊出身・在住の女性20名(平均年齢27.0歳、22歳から35歳)であった。被調査者に聞かせた刺激音声(図1)は、録音調査で収集した「いいよ」という発話のうち、「よ」のピッチ曲線に平坦部分があるもの、上昇・下降の度合いの少ないもの、上昇度が最大のもの、下降度が最大のものであった。被調査者に、それらの刺激を2回ずつアトランダムに聞かせ、「承諾」と「断り」のどちらの表現意図の発話に聞こえたかを、「承諾」(2点)と「断

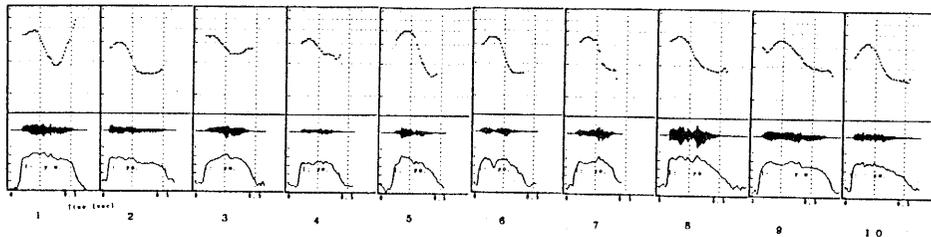


図1 調査I刺激

り」(-2点)を両極に配した5段階評定で示すよう指示した。

各刺激の評定の平均値と標準偏差の結果は図2のとおりである。「よ」のピッチが上昇する「いいよ」は「承諾」の発話として聞かれ、「よ」のピッチがゆるやかに長く下降する「いいよ」は「断り」の発話として聞かれる点は轟木(1993)の結果と同じである。しかし、ピッチ変化の平坦な「よ」を伴う「いいよ」は「よ」の平坦な部分の持続時間が長ければ「承諾」の発話として、短ければ「断り」の発話として聞かれており、この2個の「よ」の音調を轟木(1993)の「低くつく平坦な音調」1種類に分類することはできない。「低くつく平坦な音調」を、「よ」の平坦な部分の持続時間により、2種類に分類する必要があるのではないだろうか。また、その2種類の音調に分かれる「よ」の平坦な部分の持続時間の境界はどのくらいの時間なのだろうか。

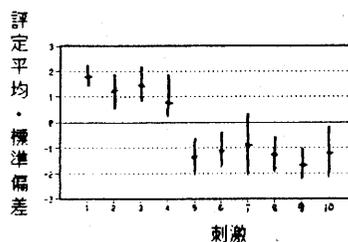


図2 調査I結果(全被調査者2回)

3. 聴取調査II

調査の目的は、「よ」の音調を分類する際、低く平坦に発音される「よ」を「長」と「短」の2種類に分ける必要があるかどうか、また、低く平坦に発音される「よ」を伴う「いいよ」が「承諾」の意図を表す発話とみなされるのに必要な「よ」の平坦部分の持続時間がどの程度かを確かめることである。

被調査者は、聴取調査Iと同じ女性であった。被調査者に聞かせた刺激音声(図3)は、「よ」のピッチ曲線の平坦部分が長い「いいよ」の音声を、末尾から32msecずつ削除することを繰り返した8個の加工音声であった。各刺激を2回ずつ、「よ」の持続時間の長いものから短いものへ変化するように提示するテープと、短いものから長いものへ変化するように提示するテープを、被調査

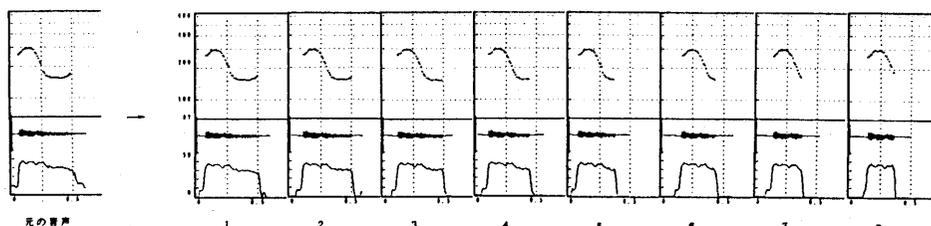


図3 調査II刺激

者に聞かせ、「承諾」と「断り」のどちらの発話として聞こえたかを選ぶよう指示した。

各刺激に対する「承諾」と「断り」の反応数を集計した結果は、図4のとおりである。

「承諾」と「断り」の表現意図は、「よ」の平坦部分の長さによりカテゴリー的に聞き分けられ、刺激4から刺激6の間で評定が変化している。このように、発話の表現意図が

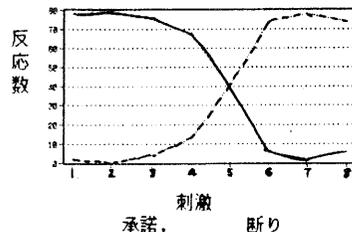


図4 調査Ⅱ結果(全被調査者4回)

「よ」の持続時間により異なるので、平坦な「よ」の音調は、「長」と「短」に分ける必要がある。「平坦長」の「よ」を伴う「いいよ」は「承諾」、「平坦短」の「よ」を伴う「いいよ」は「断り」として聞かれる。「承諾」と「断り」を分ける平坦部分の持続時間の境界は、刺激4の平坦部分の持続時間72msecと刺激6の8msecの間にあると考えられる。

4. まとめ

本研究において、東京近郊出身・在住の20代から30代の女性の使用する「いいよ」にみられる「よ」の音調は、その機能により、上昇・平坦長・平坦短・下降の4種類に分類された。

今後は、合成音声を使用し、「いい」と「よ」のピッチ差、「よ」の上昇・下降の角度、強さ等と発話の表現意図との関連を検証したい。また、母語話者と学習者の「よ」の使い分け・聞き分けの相違点を探り、日本語の音声指導に役立てたい。

<主な参考文献>

- 今川 博・桐谷 滋 1989 DSPを用いたピッチ、フォルマント実時間抽出とその発音訓練への応用 電子情報通信学会技術報告SP89-36, 17-24.
 平凡社編 1981 新版心理学事典
 轟木靖子 1993 東京語の「よ」の音調と機能について 水谷 修・鮎澤孝子・前川喜久雄編 日本語音声と日本語教育<D1班> -外国人を対象とする日本語教育における音声教育の方策に関する研究-平成4年度研究成果報告書, 41-56.

(大東文化大学非常勤講師)